

# 平成29年度 放送番組審議会 議事録

## (株式会社ジェイコム九州 熊本局)

日 時：平成30年2月27日（火） 14：00～15：30

場 所：株式会社ジェイコム九州 熊本局 会議室

### 出席者

委 員：宮園 博光氏（会長）、田原 誠也氏、大田 祐助氏、甲斐 広文氏、  
池田 明美氏、山崎 苑華氏

事務局：株式会社ジェイコム九州 熊本局

代表取締役社長 徳田 瑞穂、取締役熊本局長 前田 貴敏、  
地域プロデューサー 河村 文治

株式会社ジュピターテレコム 西日本メディアセンター  
センター長 仲川 圭、熊本事務所長 本田 憲生、  
熊本事務所 牧 幸生、中村 文香

### ●司会進行 宮園会長

#### 1、徳田社長挨拶

J：COMIには、全国向けのコンテンツを放送する「J：COMテレビ」と地域情報を放送する「J：COMチャンネル」の二つのコミュニティチャンネルがある。

J：COMテレビでは、“J：COMだから観られるオリンピックがある。”をキャッチフレーズに平昌オリンピックの模様を55時間ほど放送した。

本日審議いただくのは、「J：COMチャンネル」であるが地域密着・地域貢献をコンセプトに数多くの番組を制作・放送してきた。厳しく審議して頂き、忌憚のないご意見を承り、さらによい番組編成を作りあげていきたい。

#### 2、宮園会長挨拶

始めに委員の自己紹介をお願いしたい。また今回は、3名の委員が新任された。

（新任：池田委員、熊宮委員、山崎委員）

本日は、委員7人中6名が出席。放送番組審議会規定第4条に基づき、当会は成立。

#### 3、会長、副会長選出

宮園会長）今回3名の委員が新任されたため、放送番組審議会第3条3項に基づき、

会長・副会長を新たに選任したい。

田原委員) 会長を宮園委員、副会長を大田委員に推薦したい。

委員一同) 異議なし。

宮園会長) 会長を宮園、副会長を大田委員に選任する。

また、今年度は放送番組基準の変更はなし。

#### 4、議題1

自主制作番組実績について

##### ① コミュニティチャンネル概要説明

##### ② レギュラー番組についての説明

(各番組のダイジェストを放送し、説明)

★デイリーニュース(中体連スペシャル・エリア特派員制度含む)

★わくわく1年生

★新番組:山旅日記・フィロソフィアの扉・探究!肥後の爽風

##### ③ 特別番組についての説明

(各番組のダイジェストを放送し、説明)

★熊本地震追悼復興祈念特別番組「復活を誓い、復興へ歩む」

★藤崎八幡宮例大祭2017生中継

★バドミントンS/Jリーグ2017熊本県熊本市大会

★BリーグB2 2017-18 第10節

「熊本ヴォルターズ × ライジングゼファー福岡」

★ありがとうスペースワールド

★成人式特集

★ホークス宮崎キャンプ

##### ④ その他

・J:COMテレビ(Jテレ)概要・番組紹介

・地域情報アプリ「ど・ろーかる」紹介

#### 5、議題1の質疑応答

委員) ネタ集めはどうやって行っているのか。

事務局) プレスリリースや、エリア特派員からもらうことが主。今後取材に出かけた際、情報を持って帰る習慣を養いたい。外出先でアンテナを張っておくのが近道だと感じている。

委員) いかにローカルネタを引っ張ってくるかが大事。

委員) 地域の小学校区の回覧板は、ネタの宝庫。情報提供のみを行う地域の方がいてもよいのでは。

事務局) 情報収集の大切さは痛感している。また裏取りも重要。

熊本地震のような局地的な災害でさえ、スタッフのみで情報を収集するのは、限界がある。ご指摘のように地域の方からの情報を常に集める仕組み作りが大切。今後熊本局をトライアル局として「ど・ろーかるアプリ」に地域情報等を投稿できるシステム開発を実験的に行う予定である。

委員) 以前放送した、「阿蘇の『あか牛』(けーぶるにつぽん・食 JAPAN)」が非常によかったが、その後、どうなったか? 今後も追いかけて頂きたい。また、熊本地震の液状化について地域密着ということでそのような話題も報道してほしい。

事務局) 地域の誇れるものはもちろんの事、熊本地震関連にしても現在、エリア特派員の方から仮設住宅の様子など、かなり深掘した情報を発信してもらっている。継続して発信していきたい。

委員) (液状化に関して) ドローンで撮影したようなものは、あるか。

事務局) 空から見た地域の様子としては、現在 SB で「空中散歩」という短尺を放送している。

委員) 「空中散歩」は、熊本城近辺の様子など面白く視聴している。

事務局) 今後も定期的に地域の様子をドローン等で撮影していきたい。

委員) ニュースの撮影に関して、撮影方法が変わったと思う。前よりバリエーションが増えたような気がする。編集技術も上がったのではないか。また、「ど・ろーかるアプリ」はインバウトでも使えるのでは。多言語化するとよいと思う。

事務局) グループ全社的にそのような需要は上がってきている。善処する。

委員) 今年の藤崎宮秋季例大祭は、台風の影響かダイジェスト放送が少なかった。

事務局) 台風による祭り延期により、ダイジェスト分の編成枠が減ってしまった。次年度は、あらゆる事態を想定して是正する。

委員) 2019 年、熊本での世界大会開催機運を高めるためラグビーやハンドボールの番組を制作してはどうか。

事務局) 熊本県単独開催のハンドボールに関しては、次年度短い尺でハンドボールのルールを取り上げる番組を制作する予定。ラグビーに関しては検討する。

委員) スポーツの話題が増えたと思う。

委員) 今年度は、高校総体も取り上げて、視聴者目線になってきたと思う。

あとは、比較的家にいる、高齢者向けの番組があってもよいと思う。

例えば、山歩きの番組でも薬草やレシピ等、+αで視聴者がためになる情報が欲しい。熊本ならではの面白いネタ、身近なネタをピックアップすると高齢者層には受けが良いのではないかと。

委員) 健康向けの料理番組とかどうか。例えば、地元のおばあちゃんに料理を教えてもらう内容など。コアな情報があると、より見てもらえると思う。

事務局) 前向きに検討する。人と費用とものが限られている中、年度ごとに編成のテーマを決めている。頂いた意見はすぐに実行できるようにしたい。

事務局) 今、九州はスポーツイベントが多い。そのため、取り扱うコンテンツが、スポーツ寄りになっている部分がある。

## 6、議題2

平成30年度自主制作番組方針について

## 7、議事2の質疑応答

事務局) 編成案についてぜひやってほしいというご要望や地域で特色のある情報等のご意見を承りたい。

委員) 地域の中にいる人からだと、当たり前だと思っている部分がある。外にいる人から見たら、実はすごいと思えるようなもの、外から見た人の意見がピックアップできるような体制があるとよい。

事務局) エリア特派員を来年度は増員予定。地域の情報を深掘できるようにしたい。

## 8、その他の質疑応答

委員) 取材ネタの選定について、どのような戦略に基づいてのものか。例えば出口から来たネタなのか。地域の人が面白いと思うニーズなのか。ネタの分析はしているのか？また放送しているものは、広報なのか情報なのか、目的やビジョンを知りたい。

事務局) 視聴者に有益な情報をお届けするのが第一。そのため、エリアの人に向けた有益な情報を発信することが、J:COMチャンネル熊本としての方針。

震災のときに、生活支援情報を放送したがその点が評価された。これからもこのスタンスでいく。

委員) 合志市はどうか？現在、人口が右肩あがりに伸びている。

委員) 合志市には、楽しい情報がたくさんある。昔からの建物もある。面白い視点で取材すると、行政の協力が得られるのではないかと。

事務局) エリア特派員の中でも他地域から来た方がいる。色々な目線で番組を企画していきたい。

委員) 外から来た人の視点は、もともと地域に住む人の視点とは違うので面白い。

事務局) J:COM としては今後、コミュニティサービスパートナーを目指していく。  
具体的には、地域イベント等を一緒に開催したり、地域の課題を一緒に解決したりし  
ていきたい。「地域に寄り添う」というのが J:COM の使命だと考える。

## 9、前田局長挨拶

熊本は、今年開局 30 年を迎えた。以前の番組審議会では、番組の質をご指摘頂くこと  
が多かった。しかし今は、番組の取り上げ方等でご意見を頂くようになり、一段階ス  
テップが上がった気がする。今年度から始めたエリア特派員制度は、震災のときに住  
民目線での取材ができなかったという反省からスタートしたものである。まだまだ足  
りないところがあると思うが、地域に住む人たちに必要とされるよう今後も努力して  
いきたいと考える。

## 10、閉会

以上

